

No.162

公民館だより

平成30年3月

宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

ウォーキングのススメ(三)

由良地区公民館長 枝川 隆 亮

始回(一)において宮津市の「健康増進と福祉の推進を図る」取組や、健康づくりはどうすれば効果的なのか、またウォーキングとはどのようなものを説明しました。

前回(二)はもう少し詳しく、「歩く人ほど転ばない」や、「いかに歩くことが大事である」かをウォーキングを実施した効果などについて説明をしました。

最終回(三)は、「インターバル速歩」について説明します。「インターバル速歩」の基本はウォーキングで、「普通歩き」3分と「速歩」3分を交互に行う歩き方です。これを「インター

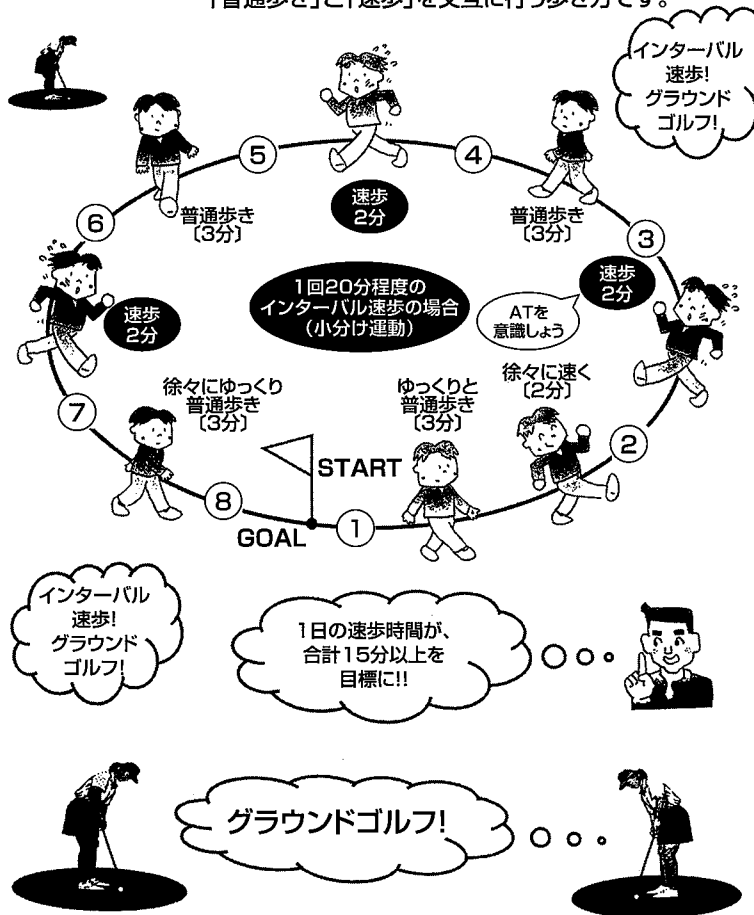
バル速歩」と言います。「インターバル速歩は通常のウォーキングより一分間あたりのエネルギー消費が多いため少ない運動時間でより大きな効果を得ることが出来ます。

たとえば「今日は奈具神社まで歩こう」というように、目的地を決めて歩いてみましょう。

疲れたり息が切れたりしたらペースを落としてゆっくり歩き次の電柱まではまた速歩で

インターバル速歩をやってみよう!!

インターバル速歩の基本はウォーキングで、「普通歩き」と「速歩」を交互に行う歩き方です。



……。
速歩の時間は3分に限定しなくても良いと思います。
合計一日十五分以上、週六十分以上を目指して歩いてください。

これは「効果的な有酸素運動」と言われています。
「短い時間」で運動効果を出

すには、「強い運動強度」が必要で、(無酸素運動)「軽い運動」で運動効果を出すには、「長い運動時間」が必要です。どちらも続けることが困難です。長続きしません。

いずれにしても、長く続けることが健康を維持する秘訣になります。頑張りましょう。(完)

行事報告

主事 千坂 幸雄

◎由良地区文化祭

日時：十一月五日(日)

午前九時～午後三時

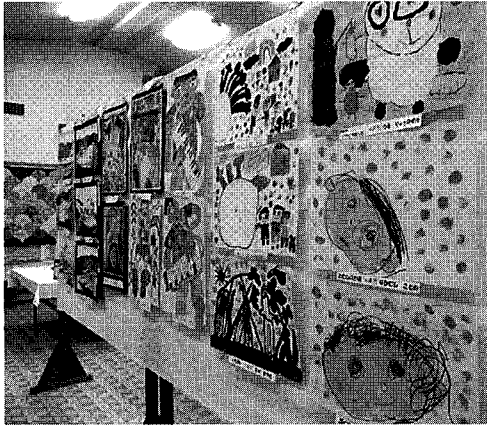
会場：由良地区公民館

来場者数：約四百名

天候は晴れ、風もなく、文化祭日和になりました。そのおかげで多くの方に参加していただき、にぎやかな文化祭になりました。

二階大会議室では、文化祭のメインになる作品の展示を行いました。

「栗田幼稚園児、栗田小学校



児童、栗田中学校生徒の力作」
「日本習字潮風会支部、中西先生以下、生徒作品」
「九点の素晴らしい習字」
「由良習字クラブの熟練の作品」
「由良写真クラブの美しく見事な作品」
「池坊生け花教室の見事な生け花十一
点(池坊の生け花教室が今年度から蒲江の後芳子先生を中心に再開されました。)」
「山口朋子先生を中心にした手芸教室は今年
のテーマをお地藏様にして一
〇六体を見事な美しさで飾って



いただきました。」
「浜野路夕月サロンの風呂敷包みも見事でした。」

一階では例年通り、結・友・遊の方にうどん・寿司販売をしていただきました。持ち帰りもできますが、公民館で食される方が多くいました。後で聞いたのですが、石浦地区では自治会長様を中心に、地区で頼まれた分を持ち帰って皆さんにお配りしているとのことでした。
コーヒーコーナーも足湯の方を中心に行っていました。
外では、岡田武さんを中心にバザーを行っていただきました。



オリブ製品、飾り小物、野菜などを販売しました。
多くの方の協力を得てにぎやかな文化祭になっていたことをつくづく思いました。
次年度に向けての課題は、
① 展示作品の充実
② 子どもの遊び場の提供や子供がほしがるような売り物の工夫
③ 高校生の活躍の場
④ 音楽等の発表の場
⑤ 会場の工夫
⑥ 開催日
多くの方から意見をいただき、より充実した文化祭になればと思います。

◎しめ縄作り講習会
日時：十二月七日(木)

午前九時～
午前十一時三十分

会場：由良地区公民館

講師：三嶋 安夫氏

参加者数：男性五名

女性三名

昨年、好評だったしめ縄作り講習会、昨年参加された方が参加されず、新たな方を五名迎えて実施いたしました。

講師は昨年と同じく、三嶋安夫さんにお世話になりました。

藁はもち米の藁を由良神社ご神木のしめ縄と兼ねて岡田武さ



んをお願いしました。

参加された皆さんは、先生の指導のもと熱心に受講され、立派なしめ縄を作ることができました。

始めにしめ縄をきれいに作るために藁のいらぬ部分を取り、次に藁をたたいてやわらかくする。それから、作りたい形や大きさによって藁の量を考え、三束にし、二束から縄にしていきます。ねじりは左回りに、よじりは右回りにします。二本ができたなら、残りの一本を加えます。

私は昨年教えてもらいましたが、ほとんど忘れていましたので先生に半分は作っていただいで何とか形になりました。

次年度も実施する予定です。今まで参加していただいた方も是非また参加していただいで技能を向上させていただければと思います。

◎子供料理教室

(ケーキとカレーライス作り)

日時：十二月十日(日)

午前八時半～午後一時

会場：由良地区公民館

参加者数：小学生十四名

大人七名

講師：宮津市食生活改善推進

委員四名

子供料理教室は十三回を迎え、今年度も昨年度同様に食改の方の指導を受け、由良子供会連絡協議会共催で平成二十九年「こどものびのび体験活動」事業として「子供料理教室」を開催、今年度は「クリスマスケーキとカレーライス」に挑戦しました。

始める前に館長と食改の方にあいさつしていただいて始めました。最初は四年生以下がクリスマス飾り作り、五・六年生はカレー作りをしました。カレー作りをさせるのは初めてでしたが、食改さんの指導でしっかり頑張ることができました。四年生以下の子は色紙を折って飾っていました。

その後、みんなでケーキのポンジにイチゴやパイナップル、生クリームでデコレーションしました。ケーキやカレー、サラダをいただき、その後、集合写真を



撮りました。

食事までに四十分間の休憩をとったことで、子供たちの自主的な交流(鬼ごっこ)になり大変良かったと思います。

閉会のあいさつを館長にしていただき、食改さんにお礼をして解散しました。

五・六年生に感想文を書いてもらいました。公民館だよりに掲載しています。

来年は餅つきの予定です。餅つきとケーキ作り、どちらにも良さを感じます。

◎新春囲碁大会

由良囲碁同好会共催

日時：一月六日(土)

午前九時～午後三時

場所：由良の戸(安寿足湯)

千軒長者の館

参加者数：十名

館長あいさつの後、由良囲碁同好会長のルール説明を受けて開始しました。

結果は次のとおりです。

優勝 竹村 寛三氏

四勝一敗

準優勝 熊田 良雄氏

三勝二敗



第三位 飯澤 登志朗氏

三勝二敗

優勝は久しぶりに参加した竹村三段でした。しかし、四勝〇敗でむかえた第五戦で磯田一級に苦敗しました。囲碁というものの奥の深さを感じました。三勝二敗が三人になり、しかも三つ巴の結果、くじで二位と三位を決めることになりました。女性の方たちが、認知症予防を兼ねて囲碁を試してみたいという意見もあり、今後女性のための囲碁教室を考えていくことを確認しました。

◎巡回ニュースポーツ教室

(ユニカール、ファミリーバドミントン)

日時：一月八日(月)

午前十時三十分～

午前十一時三十分

場所：はまの子体育館

参加者数：十七名

ウォーキングの後、体育館に集合し、ニュースポーツを行いました。

準備はウォーキング前にスポ



ーツ推進委員の方にしていただきました。

館長あいさつの後、スポーツ推進委員の方に準備体操とルール説明をしていただきました。

今回、初めてファミリーバドミントンも行ってみました。

時間の関係でユニカールをする方とファミリーバドミントンをする方に分かれて、どちらかをしていただきました。

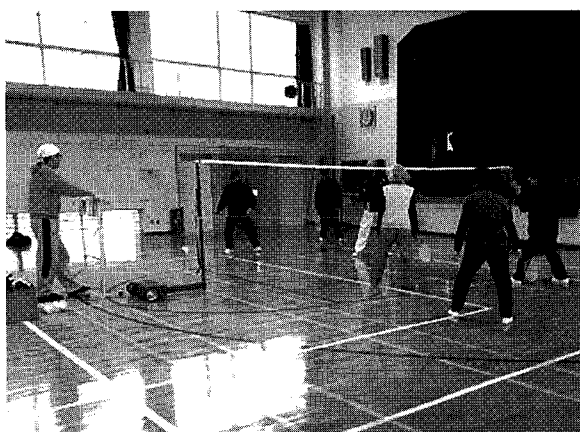
ユニカールは、何回か経験がある方もいてスポーツ推進委員の方にリードしていただきました。

ら楽しんで行うことができました。

ファミリーバドミントンは、慣れるまでゲームになりませんでした。そのうち慣れてきて楽しむことができました。足腰を丈夫にしておかないと羽の動きについていくことができません。

官津市ユニカール大会のお知らせがありました。

天気が悪かったせいもありますが、祝日でもありましたのでもう少し多くの方に参加していただければと思いました。



◎由良地区人権問題研修会

日時：二月十三日(火)

午後七時半～午後九時

会場：由良地区公民館大会議室

参加者数：十九名

講師：大西寛治氏

(宮津市教育委員会
人権教育指導員)

テーマ：インターネット社会に

おける人権問題

プロジェクターを使ってわかりやすく説明をしていただき、また、インターネット社会における人権問題について興味を持って学習できました。

インターネット上の人権侵犯の現状として小・中・高校生など若い世代の被害が多いことを考えると大人がしっかりと子どもを見守り、だまされない賢い子どもになってもらうようにすることが必要なことがわかりました。

「部落差別解消推進法」が施行された背景に、インターネット上で部落差別の事象が出ていくことがわかりました。(正しい知識をもっていないと鵜呑み



にする)。

ステレオタイプについても考えさせられましたし、人権意識をしっかりと持つことが、他者の権利についてもしっかりと考えたことができるとわかりました。

日本人の自分に対する満足感には「長所がある」「社会に役立つ」があることがわかりました。若年層の育成には「自分は必要とされている」「何か社会に役立っている」という思いをいだかせることが必要で、お互いを認め合う地域社会が重要で

あることもわかりました。

同和問題についてもわかりやすく説明をしていただきました。

◎由良地区

健康広場ウォーキング

○十一月ウォーキング

日時：十一月十九日(日)

午前八時半～午前十時

今回は、ウォーキングは実施せず、体力測定のみを行いました。

体力測定者は女性二名、スポーツ推進委員の森田美砂子さんにお世話になり、実施しました。測定者二名はすべての測定を終えられました。



当日は、うまいもん市があったり、府会議員の補選があったりして参加者が少なくなりました。運営側も手薄になりました。

ウォーキングをしに来られた方もいて、申し訳なく思っています。

○十二月ウォーキング

この月は事情により二日行いました。

日時：十二月三日(日)

午前十時～

午前十時四十分

※山小屋コース

参加者数：四名

大変良い天気で子供たちと一緒に歩きました。子供たちの参加があり良かったと思います。異年齢の交流がこれからも進むと暮らし良い地区になるのではないのでしょうか。

歩数 四、三〇八歩

距離 三・三六km

日時：十二月四日(月)

午前十時～午前十一時

※森が鼻コース

プラスアルファ



参加者数：四名
 寒くはなかつたのですが、風が強く吹いていました。参加された方は元気に歩かれました。

歩数 四、九九九歩
 距離 四・一七km

○一月ウォーキング
 日時：一月八日(月)
 午前九時～
 午前十時十五分
 ※由良地区四社詣り
 ウォーキング
 参加者数：十四名
 天候、曇り時々雨、気温八度、



風は微風、出発まで雨が降っていましたが、ウォーキングの最



中は雨も止んで、良いウォーキングになりました。



歩数 五、〇二二歩
 距離 四・四kmでした。

体育館前に集合、館長のあいさつの後、準備体操をして出かけました。

奈具神社、由良神社、玉司稻荷神社、北野御膳宮、照国稻荷神社を参拝し、由良の人々の幸せと我が家の安泰を祈願し、新年を気持ち新たに過ごす決心をしました。

ウォーキングの後、ニュースポーツ(ユニカールとファミリアバドミントン)を行いました。

宮津市の小学校社会科副読本「私たちのまち宮津市」第六版に 丹後由良出身の蘭方医「新宮涼庭」記載を祝う

栗田小学校教頭 宮前 一彦



書物を読む涼庭の銅像

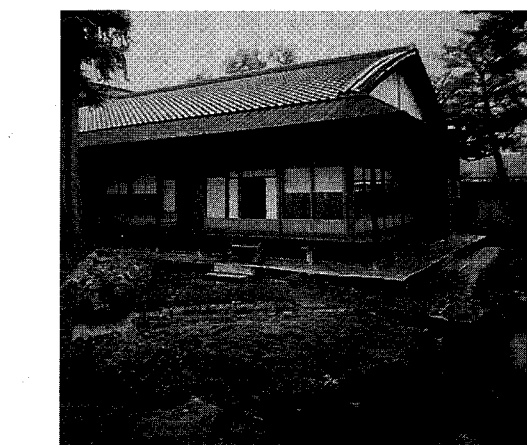
涼庭の銅像は1962年（昭和37年）に舞鶴市に寄贈されました。現在、舞鶴市北吸の舞鶴メディカルセンターの玄関前に据えられています。この涼庭像は故郷由良の方角を向いているそうです。

新宮涼庭が丹後由良に誕生したのは、今から約二三〇年前の天明七年三月十三日と伝え聞く。彼が、この度平成三〇年度の新版宮津市の小学校社会科副読本「私たちのまち 宮津市」第六版に「郷土の偉人」の大型企画に登場した。A4版見開き2ページの大型企画である。二三〇年の時を経て、丹後由良が生んだ郷土の大きな偉人として、宮津市の小学校教材に大きく記載されたことは、本当に喜ばしい限りである。

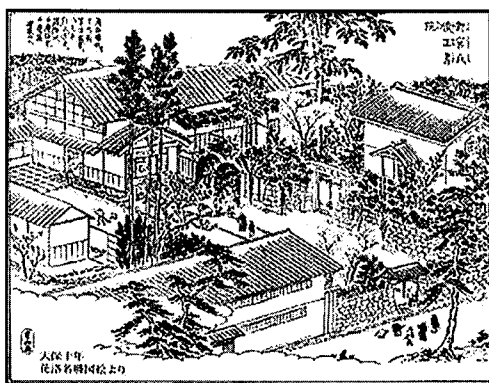
さて彼の功績は、江戸末期の都府立医大の礎を築いたり様々な地方で活躍し民衆を助けたりしたことである。その人徳と志は、広く世代を越えて受け継がれて現在に至っている。加えて、理財家として、東北地方や福井県・三重県・岡山県にも出向き、財政指導や融資・学校建設に心血を注いだことは、歴史的にも有名であり、経済書「破れ家ノツヅクリ話」の著作などがある。彼が活躍した江戸末期の文化・文政・天保の時代は、大飢饉や一揆が起る等極めて厳しい社会情勢であったと想像される。

そこで大きな力を遺憾なく発揮して、人々から慕われ続けた涼庭の人格と才は、いかなるものであったか。

今から四〇数年前私は、受験参考書に江戸時代の蘭学・医学者杉田玄白・前野良沢という極めて有力な医学者の横に「京都の新宮涼庭」順正書院で多くの医学生を養成する。という記述があったことを覚えていた。確かシグマベスト「日本史」であったと思う。当時は、知る由もなくなんとも思わなかったが、後年こんな立派な歴史的な人物が身近な所にいらつしやつたかと思うと自らの浅学非才を恥じるばかりである。その「順正」という名前は、今も京都市の南禅寺の近くに高級湯どうぶの料亭「順正」として、長い歴史を受け継いでいる。



現在の「順正」（もと順正書院）



当時の順正書院

議・校正したものである。これには「由良の歴史を語る会」の助力添えもあったとき。

結びにあたり、宮津市の小学生が、郷土の偉人を身近に感じ、現在も脈々としてその功績が京都府立医科大学のなかに生き続けていることを学ぶ機会として喜び、祝いたい。

【補足資料】

新宮涼庭（一七八七〜一八五四）は由良で生まれる。長崎で蘭医学を修養したのち帰郷し、一八一九年に京都で医院を開業、やがて京都随一の名医となった。その後、私財を投じて、当地に医学校を設立したのが、順正書院であり、内外科のほかには六学科を定め、体系的な医学教育が行われ、現在の京都府立医科大学の礎を築くことになる。由良神社には地元の住民が建てた石碑がある。

この資料は、宮津市社会福祉協議会マスコットキャラクター「ミヤツピー」四コマ漫画の補足説明から引用

西郷隆盛（一）

中西 衛

慶応元年（一八六五）の暮れ、土佐勤王党の出身で、当時は長州藩反幕派の客分の位置にあり、地方の志士と交わりが広く深かった中岡慎太郎は『時勢論』を草して郷里の同志友人たちに示した。その冒頭に当時の反幕志士中の人物を次のように論じている。当時洛西（京都以西）の人物を論じ候へば、薩摩には西郷吉之助あり、人となり肥大にして後免の要石にも劣らず、古の安倍貞任などは斯の如き者かと思われ候。此の人学識あり胆略あり、常に寡言にして最も思慮深く雄断に長じ、たまたま一



言を出せば確然人の肺腑を貫く。且つ徳高くして人を服し、しばしば艱勤をへて事に老練す。其の誠実武市（武市瑞山）に似て学識これ有する者、実に知行合一の人物なり。これ即ち洛西第一の英雄に御座候。これに次いで胆あり識あり、思慮周密、廟堂の論に耐ゆる者は長州の桂小五郎（後の木戸孝允）。胆略あり兵に臨みて迷わず、機を見て動き、奇を以て人に勝つ者は高杉東行（晋作）、それまた洛西の一奇とす。（文中の「後免」は高知城下の東三里近くの村の名。「要石」はそこにいた当時土佐で有名な力士）

当時西郷に接した志士たちは皆、西郷を大人物として敬服しているが、中岡の右の評価は、西郷の外貌内面の骨格をよく伝え、また西郷が志士たちにより他の誰にも勝る第一の英雄と認められていたことを示している。

この評価、位置づけは、中岡一人の主観ではなかった。西郷の体格が当時の常識を飛び抜けて大きかったことは周知のこと。

身長は六尺近く目方は三十貫前後、この身長にふさわしく顔も大きい。とりわけ大きな丸い黒眼が光っている。西郷の息子二人とも「父の目だけは確かに人と違っていた。」と父の思い出の中で語っている。こういう体つき、目つきは、西郷の肉面的内面的大きさを引き立てる言わば舞台装置となっていた。

西郷の人格面については、中岡はまず「学識」があるという『学識』とは何か、学問知識の意味だとすれば、西郷はたいした学問はない。まず洋学の知識は全然ない。

国学：日本の文学や歴史の古典の学問もない。和歌のたしなみもほとんどなかった。

しかし、朱子の「近思録」を愛読し、王陽明の「伝習録」も学んでいる。佐藤一斎の「言志四録」の愛読と彼の万瀾万丈の

政治闘争の体験の省察とから

『啓天愛人』という有名なことばに代表される彼独自の実践哲学をつくり、あまり多くない漢字の知識をも、口まねでない自分のものとして活用した。当時の国際情勢、西洋事情についても、多年の政治活動の中でたい知った。初期には主君島津斉彬や同土橋本左内から学ぶところがあつたであろうし、中頃には勝海舟に目を開かれている。イギリス公使パークスや書記官アーネスト・サトウとの折衝の間に西洋列強の情勢について知るところもあつたろう。次は「胆略」のこと、胆は大胆、胆力、略は物事に巧妙なことであるが、中岡が上文にいうには「胆」を主としていると思われる。この胆略はまた勇氣でもある。西郷が胆が座つた大勇の人であることには幕末期の人も明治期の人も等しく驚嘆している。

文久二年（一八六二）三月、豊後岡藩の尊王攘夷派のリーダー小川一敏は、下関で初めて西郷に会って、その印象を次のよ

うに書いている。

『大島（三右衛門）は、もと西郷吉之助というてから月照と一且海に投じ候えども引き上げられて蘇生したる男にて、さてもかかる勇夫大胆の人も今の世にこれ存するとは思ひもよらざるほどの人にて御座候。きわめて大事を成す人と存じ候。かかる勇士もあればあるものだから感心仕候。しかし猪武者にてはこれなく候。』と

この時西郷はまる三年に及ぶ大島での流人生活から赦免されて、再び政治舞台に登場したばかり。まだ人目につくような大仕事はしていないのだから、小河がこのように言ったのは、初めて会った西郷の大きな身体、黒い瞳から放射される生気を感じ、又この時居合わせた西郷の古い同士―西郷が月照と入水したとき西郷を助け上げた人、平野国臣から、西郷の経歴、人となりを聞き、又、西郷が平野との再会を喜び、「またも死生を共にすることになりましたな。いずれ、決策が立てば共に討死

しましょう。」などと語るのを聞いて、感動したのであろう。

元治元年（一八六四）七月、長州の大軍が京都宮廷に攻め込み、京都守護職会津藩の兵と西郷の指揮する薩摩兵がこれを撃退した戦争（甲子の戦争）で、西郷の指揮が大胆巧妙である（胆略がある）のと、戦士西郷自身の勇戦は、敵味方等しく認めるところであつた。

続いて同年秋から年末にかけての幕府の第一回長州征伐のとき、西郷は征長軍の参謀長となり、長州藩論の分裂に目をつけ、「長州人をして長州を処置させる」「戦わずして降伏させる」戦略を立て、見事に成功した。この時征長軍が長州藩に受け入れさせた降伏条件は三箇条あり、そのうちの山口城破却と藩主父子自筆の謝罪状提出の二箇条は、直ちに実行せられたが、残る一つ、当時長州に亡命していた三条実美ら尊皇派の公家五人を長州藩から他藩に移すという条件のは、五卿自身及び五卿を守っている奇兵隊をはじめとする長

州「諸隊」が強硬に反対して、実行されそうにもなかった。

すると西郷は、自ら小倉に行き、十二月四日、五卿付属の中岡慎太郎と会見し（両者は初対面）五卿移転により早く征長軍を撤兵させる方が五卿と長州にとって有利であることを説いた。中岡は、はじめ、話の成り行きによつては西郷を刺すつもりであつたが、西郷の人柄、勇氣と誠意にすっかり感動し、まず五卿を移転させることに同意した。

西郷はさらに十一日には、長州隊がいきり立っている下関に、護衛の兵隊も連れず、わずかに二人の薩摩藩士を従えただけで、乗り込んだ。長州から見れば、西郷は七月の京都の戦争で、長州の尊攘軍を壊滅させ、久坂玄瑞をはじめ長州のかけがえのない指導者たちを死なせた元凶、恨んでも余りある仇敵である。薩摩藩士たちは、西郷が下関へ乗り込んでも、諸隊は西郷との交渉に応じるところか、見つけ次第殺してしまふであろうと、強く西郷を引き留めた。西郷は

聞かない。自分の生命は投げだそう。長州側が私を殺したりすれば、その後に彼らは窮地に陥り、かえって問題解決は容易になる。と言って平然として下関に入り、諸隊の総指揮者である高杉晋作、奇兵隊総督、山形狂介(有朋)に会ってついに説得した。

五卿は筑前に移る。同時に征長隊は解く、ということと西郷と諸隊の妥協が出来た。ところが、この直後、十二月十六日、諸隊は恭順派が牛耳る藩政府に反乱を起こし、諸隊優勢のうちに戦線を拡大した。これを見た征長軍総督府内部では、長州藩はこの先どうなるかわからず、五卿移転の実行は当てに出来ないうとして、解兵に猛反発が起った。征長軍の立場では、如何にも一理も二理もある。しかし、西郷は、長州の内乱は藩自体が解決すべきことであって、どのようにならうと征長軍は介入すべきではない。また高杉らは必ず五卿を移転させるに違いない。征長軍は速やかに撤兵すべきで

ある。と力説した。総督徳川慶勝は、西郷の説に動かされ、十二月二十七日、断然解兵を令した。果たして五卿はこの十七日後に長州藩地を去った。

西郷がこの間に發揮した一身の利害も死生も眼中に置かない無私の大勇、総督府内においても長州側に対して、ごまかしがみじんもなく、相手の「腹中に赤心を置く」誠実、大勇と至誠に結びついた、透徹した洞察力と少しもためらうことのない決断力、西郷のこれらの全てを中岡は京都の戦争に長州軍に参加して以来つぶさに見ていた。

勝海舟は元治元年(一八六四)九月、初めて西郷と会ったときから、西郷と互いに最もよく理解し合い尊敬し合っていたが、その勝は、遙か後年の語ではあるが「俺が西郷に及ぶことの出来ないのは、その大胆識と大誠意にあるのだ」と言う。「俺の一言を信じて、たったひとり江戸城に乗り込む(大胆識)。俺だって事に処して多少の権謀を用いないこともないが、ただ

この西郷の至誠心は、俺をして相欺くことが出来なかった。(できならしめた?)『氷川清話』

慶応三年(一八六七)十月、徳川慶喜が討幕派の先手を打って「大政奉還」をした。

西郷、大久保利通、岩倉具視らは武力倒幕路線を堅持し、十二月九日、クーデターを断行した。「王政復古」が宣言された。西郷の総指揮の元に薩摩、長州ら五藩の兵が御所を占領している。新政権最初の首脳会議が宮中の小御所で開かれた。

その席で、土佐の山内容堂、越前の松平春嶽が、前將軍徳川慶喜をただちにこの会議に出席させると主張。それに対して岩倉が、慶喜はただちに内大臣の官職を辞し、その領地、人民を返上するのが先決であるという。双方譲らず、深夜になった。会議はいったん休憩。そのと

き大久保と共に末席にいた岩下方平がそつと抜け出し、戒厳部隊を指揮している西郷にどうしたもんかと問うた。西郷は「短刀一本あれば片付く事ではないか。この旨を岩倉公にも大久保にも伝えてくれと言った。

(次号に続く)





五年 上羽 愼吾

今日、料理教室に参加しました。五年六年は、ケーキの材料を作りました。四年生以下は、ツリーの飾りをしました。

ケーキの材料作りは、まず、イチゴのへたを包丁でとりました。次に、マンゴーを切りました。次に、パイナップルを切りました。六年生は、カレー作りをしていました。次は、ケーキを作りました。少し変になってしまったので、少し変になるとおっしゃったです。イチゴがおいしかったので、外で鬼ごっこをしました。始めに「けた」をしました。僕は、すぐにつかまりました。僕は、「こおり鬼」をしました。あまり捕まらなかったで良かったです。僕は、「増え鬼」をしました。僕は、けっこう後に捕まっていたので良かったです。次

は、カレーを食べました。サラダとカレーを食べました。おいしかったです。次に、写真を撮りました。

五年 大森 悠斗

今日、ケーキを作りました。グチャグチャになったけど、おいしかったです。久しぶりに作って良かったです。遊びました。楽しかったです。カレーを食べました。満腹感が半端なかったです。サラダはおいしかったです。早く食べれて良かったです。ケーキ作りは来年もやりたいです。餅つきもやりたかったです。ケーキを作る用意のときは「上手」と言われてすごうれしかった。僕は、このままいこうと思いがらやりました。手を洗うときすごく熱かったです。どんどん熱くなってびっくりしました。

今日、料理教室をして、僕は、ケーキとかを作っていました。僕は、五年生なので、ケーキの材料づくりをしました。始めにイチゴを切って、そして、パイナップル、キウイを切りました。切るのが難しかったけど最後まで作りました。次に、チョコクリームとかを四等分に分けました。ちよつと分けるのは難しかったけど、なんとか作りました。そして、みんなで、次に、材料を切ったので、三グループでケーキを作りました。生クリームをケーキに円のようにかけました。難しかったけどできました。生クリームをのばして、果物を

五年 岡本 汰樹

モモを切るとき向きが違っていたので直して切ると、また「上手」と言われて、僕は、上手なんだと思いました。終わったらみんな準備ができていました。カレーはおいしかったです。皆さんありがとうございます。

今日、料理教室をして、僕は、ケーキとかを作っていました。僕は、五年生なので、ケーキの材料づくりをしました。始めにイチゴを切って、そして、パイナップル、キウイを切りました。切るのが難しかったけど最後まで作りました。次に、チョコクリームとかを四等分に分けました。ちよつと分けるのは難しかったけど、なんとか作りました。そして、みんなで、次に、材料を切ったので、三グループでケーキを作りました。生クリームをケーキに円のようにかけました。難しかったけどできました。生クリームをのばして、果物を

置いていきました。もう一つのケーキの上に置いて最後にトッピングをかけました。かけたらよりよくなりました。仕上げが良かったです。食べたらいしかったです。きれいできたなあと思いました。そして、最後にカレーを食べました。カレーは甘口でおいしかったです。サラダも用意してくれました。

ケーキ作りができて、うれしかったです。次もまたがんばっていきたいです。

五年 中井 咲月

今日は、ケーキとカレーを作りました。みんな協力して楽しく作りました。カレーは、家よりか、辛口だったけど、とてもおいしかったです。サラダは、味がしっかりしていて、とてもおいしかったです。ケーキは想像と違ったものになったけど、みんな協力し合ってくれたので、良かったです。

材料を切るの、慣れていたけど、やっぱり玉ねぎは、涙が

出てきて切りにくかったです。切れたら二組に分かれて煮込みました。煮込みの順番や、やり方をやさしく教えてくれて、うれしかったです。

次に、ケーキを作りました。五人組で協力してやりました。途中で「それちがう。」「そうじゃない。」「と言うときもあつたけど、お店と同じようになるようにがんばりました。思ったようにはいかなかったけど、食べた時は、おいしかったので良かったです。

料理教室でみんなと集まっていい機会になつて良かったです。来年は最後なので、また来て、いい機会になればいいなと思います。

五年 山田 希海

僕は、まず始めにケーキ作りをしました。フルーツを切る作業で、まずイチゴのヘタをとり、薄く切るものや、普通に切らずに使うこともありました。次は、マンゴーを薄く縦に切りました。



パイナップルは四つに分けて切り、最後にキウイをこれも薄切にしました。そして、ケーキにかけるトッピングを四つに分けて運びました。そのころ、一々四年生は、ツリーの飾りつけをしていましたが、全員でトッピングをしました。僕たちのケーキは、かなりでかくなりました。他のところは、ケーキ屋さんで売っているようなケーキを作っ

ていました。切り分けて食べたから、おいしかったです。その後、四十分間の休憩タイムになって、皆で遊びました。休憩が終わってからカレーとツナのサラダを食べました。両方とも、食べるとおいしかったです。おかわりをしようと思っただけど、ケーキを食べておなかいっぱいだったので、やめておきました。

この経験をして、自分が作れる料理を増やしていきたいなと思いました。

六年 中西 陽菜

休みの人もいたけど、ほとんど全員が集まるのは、あまりなかったのので、良い機会になりました。

カレー作りは、高学年だけでやったので、スムーズに楽しく進められたので、良かったです。

ケーキ作りでは、適当に分かれて、いろんな学年の人とできたので、楽しかったです。クリームを塗るのは、難しかったし、ケーキの見た目も悪かったけど、みんなで作ったので、おいしかったです。果物が余ってしまったので、後で食べました。おいしかったです。

四年生以下の人たちが、折り紙とかでクリスマスツリーを飾ったりしてくれていて、とてもきれいでした。いいクリスマスツリーになっていて、すごいなと思いました。

リーダーとして、指示もできず、皆が楽しくなるようにできたので良かったです。自由時間には、六年生の人たちで遊べたので良かったです。

カレーもケーキも、おいしかったですし、みんなできて楽しかったです。来年は、中学生で行けないけど、楽しかったし、料理のことが学べて良かったです。

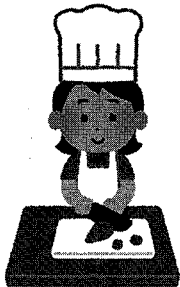
六年 野村 心虹

今日、料理教室がありました。玉ねぎを切るとき涙が出ると思ったけど、出なかったので自分でもびつくりしました。肉を炒めるときが一番怖かったけど、おいしくできて良かったです。

ケーキ作りでは、最初は、きれいにできていたけど、後からだんだん雑になって行ってグチャグチャになってしまいました。でも、みんなと楽しくできたので良かったです。ケーキを食べるとき、いっぱい食べすぎて苦しかったです。

カレーもサラダも美味しかったので両方おかわりしました。「たくさん食べてなっ」と言われてたくさん食べた結果、苦しくなりました。

今年で最後の料理教室、おもしろくて楽しい、最高の思い出ができて良かったです。



六年 室澤 亜紗

今日、地域で料理教室が行われ、私は、カレー作りとケーキ作りをしました。カレー作りを五年生と六年生でやるのは今までなかったもので、良い機会になりました。あまり私は家で料理をしないので、手伝うことしかできなかったけど、とても楽しく料理をすることができました。

ケーキ作りでは、六年生をリーダーにし、グループを作り、ケーキ作りをしました。グループの一人がふざけて、見た目はあまり良いものじゃなかったけど、とても楽しくて、おいしいケーキを作ることができました。

料理を作るときは、楽しく作ることが大事なのかなと思います。

私は、これから中学生になり、料理を作る機会が増えると思うけど、楽しく作り、おいしい料理をこれから作っていききたいなと思います。

四部対抗ソフトボール大会

脇地区分館長 一井 勝也



本年も、八月十三日(日)はまの子グラウンドで四部対抗ソフトボール大会が開催されました。

由良地区の四チームが参加、熱戦を繰り広げ、我が脇(第一部)チームが優勝しました。

昨年は、決勝戦で戦った両チーム(一部・二部)がルール違反で失格をし、3位決定戦で勝利した第三部が優勝しました。

今年も、脇(第一部)チームは、一回戦を第二部と対戦。初戦から打線がさく裂し、快勝し決勝戦に進出しました。

決勝戦でも、打線が好調で第四部チームを下し、見事に優勝を果たしました。

四チームが熱戦をくりひろげました。好プレーあり、珍プレー続出の中、和やかな雰囲気です。試合が進み、怪我も無く無事終了しました。

各地区で選手集めに苦労された世話役さん、選手の皆様大変お疲れさまでした。また、来期も楽しく開催できますよう、よろしくお願いいたします。



由良浜の子ナーサリー

由良浜の子ナーサリー代表 中西 添 乃

「由良の小さい子どもが集まって遊んでいるからおいで。」

当時のナーサリーの代表の方にその声を掛けてもらったのが四年前。そのころハイハイをしていた長女は今年度、幼稚園に入園し、私は今、二歳の長男を連れてナーサリーに通っています。

「由良浜の子ナーサリー」とは、由良の子育て中のお母さん達で二〇〇三年に結成された育児サークルです。「ナーサリー」とは、「子ども部屋」という意味があります。〇歳〜幼稚園・保育園入園までの子ども達とその保護者が集まって、毎週火曜日の午前中、里センターで活動しています。普段は、お名前呼びをしたりおもちゃで遊んだり、民生主任児童委員さんに読み聞かせをしていただいたりして過ごしています。時には、浜の子グラウンドで外遊びをしたり、車で舞

鶴の方へお出かけしたりもしています。

十二月五日は、一年で一番の大イベント、クリスマス会でした。十一月のナーサリーで集まる度に、折り紙や画用紙で少しずつ飾りを作って準備していききました。当日は、子ども達と画用紙でツリーを作って飾り付け、主任児童委員さん扮するサンタクロースから読み聞かせをしてもらい、プレゼントももらいました。その後もお弁当や手作りホットケーキを食べながら、大はしゃぎの子ども達とともに親も楽しいひと時を過ごしました。平成二十五年、由良小学校が閉校になると同時に由良の子も栗田幼稚園へ通うようになり、由良幼稚園は休園となりました。それまでは由良の就園前の子ども達数人で遊んでいましたが、同じ幼稚園に通うようになったことをきっかけに、栗田の子育

て家庭にもナーサリーへの参加を呼び掛けています。おかげで、数年前には二組しかいない頃もありましたが、現在では、栗田も含めて十組以上の参加になることもあり、とてもにぎやかにになりました。また由良からも、栗田の子育てサロンに参加させていただき、子ども、保護者ともに交流を深めています。

主任児童委員さんをはじめ、地域の方々に見守っていただきながら、十五年間受け継がれてきた「由良浜の子ナーサリー」。昨年には、長年社会福祉活動が続けてきた団体として、宮津市社会福祉協議会会長様より感謝状をいただきました。

由良に知り合いのいなかつた私にとって、ナーサリーは私自身の友達作りの場でもありました。そう思っているお母さんは今までもたくさんおられたことでしょう。子ども達が年々減っていく中、今後どこまで

受け継いでいけるのか不安もありますが、これまでと変わらず、地域の皆様に見守っていただくと嬉しいです。皆様、またお気軽にお立ち寄りください。今後ともナーサリーの元気な子ども達をよろしく願います。



昭和三〇年と平成三〇年

由良の歴史を探る会 飯澤 登志朗

平成三〇年がスタートして早や二か月になる。北陸地方では記録的大雪に見舞われているなど寒波の厳しい幕開けである。同じ三〇年でも昭和三〇年はどんな年だったのか。六十二年前になる。

当時の由良地区は、市町村合併で由良の将来が問われていた。加佐郡六か村合併委員会に由良地区は不参加を決定し、五か村で加佐町はスタートしている。翌年、由良村協議会は舞鶴市合併を求めたが飛地合併は認められず「加佐町」または「宮津市」、いわゆる「舞鶴派」か「宮津派」に村全体を二分して大論争が起きていた。親戚・近所でも二派に分かれ挨拶もしない悲しい時期であったが、結果として宮津市合併を申請し宮津市由良・石浦となった。昭和三十一年の出来事である。

全国的に見ると、経済環境も昭和二十九年暮れごろから急激に好転し昭和三十一年に経済企画庁が発表した経済白書には「もはや戦後ではない」と記述され話題となった。

所得倍増論が始まったのもこの頃で「一万三千八百円」の歌まで流行した時期である。

東京オリンピック準備委員会が設置されオリンピック招致が始まっている。招致を開始してオリympピックが開催されたのは数年後の昭和三十九年十月十日に開会式、同年に東海道新幹線の東京〜新大阪間が開通している。

昭和三十三年由良神社前の道路拡幅工事が完了したり、昭和三十七年にテレビ共聴協議会が結成され、各家庭にテレビが普及しているが、今では考えられない懐かしい時代である。また、電話が普及したのも同じころで、

由良全体で四十台弱の手動式電話が一気に増加、私生活が大きく変化した時期であった。

おなじ三〇年でも平成三〇年はどうなるのか。

平成元年、元号が平成となり当時の小渕官房長官が「平成」と書かれた色紙を掲げたテレビの映像は皆さん思い出していただけと思う。

由良地区近辺では、関西電力エネルギー研究所（エネ研）がオープンしている。また第一回市民駅伝が始まり由良地区は見事優勝した。他にもKTR由良ターミナルが完成、マンション「セバーク由良」が竣工したのもこの時期である。

その後三〇年経過したが、少子高齢化は全国的な問題であるが、由良地区でも深刻な問題で、空き家対策や介護等々多難な時代である。

宮津市の人口は一万八千人余りに減少、税収は増える見込みが無く歳出を減らすために市議会が市内各地で議員定数のあり方を考える懇談会を開催されて

いる。

昨年十二月、これからの宮津市議会を考える会から議員定数などについての要望書が提出され、それを受けての開催である。

緊縮予算を有効に活用して市民の暮らしを守ってほしいと願わずにはいられない。

天皇陛下の退位が決定し、来年四月三〇日に退位され五月一日には新天皇陛下が即位となる予定、新しい元号に変更される。東京オリンピックも開催されるが、どんな元号になるのか。「元号」は日本の大切な文化といわれているが、何より求めたいのは住みよい明るい由良地区になるよう願っている。

※参考文献

「この日のために」

著者 幸田真音

(株)Kadokawa

「由良の歴史年表」

由良地区公民館

四十七年間に渡る

スイスでの生活を振り返って(四)

セバーク由良住民 高橋洋 二

今回はスイス料理の紹介を兼ね私ども夫婦が好んで食した料理を取り上げて参ります。

先ず一品目は、皆様お馴染みのチーズフォンデュです。鍋をある程度熱し、フォンデュ用チーズ（グリユエールとバツシュランの二種類のチーズを混ぜた粒上のチーズが一般的です）を入れてかき混ぜながら溶かし白ワインを加えて、トロトロになるまで熱します。最後に味付けとしてニンニクのすり身とキルシュと云うサクランボで作った蒸留酒（アルコール40度、透明、サクランボの香りがします）を加え完成です。こんがり焼けたフランスパンを適当に角切りしフォークに差し込み、皆でそれを鍋の中に突っ込みぐるぐる回し、自分の皿に戻してフーフーと熱を冷ましなが、ガイガイ

ワヤワヤとお喋りしながら食べるのです。チーズフォンデュには他に、キノコを混ぜたシヤンピニオンフォンデュ、トマトを混ぜたピンク色をしたトマトフォンデュ等も存在し、それぞれ味に特徴が有り皆美味しいです。チーズは胃の中で固まるので、熱い紅茶、又は、白ワインを飲みながら食します。水類の冷たい飲み物は胃の中のチーズを固め、腹痛を起こしますので要注意です。今は、家庭用としてスーパーに行く、ブレンドされたチーズに白ワインを含ませたパッケージが二人、四人、五人用と販売されていますので、家に持ち帰り鍋で熱するだけで出来上がり、とても便利です。他の副食物としては、干し肉（スイス名物、牛の太ももの燻製を薄切りしたもの。うす塩味と燻

製肉の味は絶妙です。）そして、コルニツション（小型キウリと小玉ねぎにハーブを混ぜ合せ強めに酢漬けたもの。）位です。ので、栄養価は高いですが至って簡素な山国ならではのチーズ料理と言えましょう。

二品目のチーズ料理は、ラクレットです。ラクレット用のチーズは重さ20キログラム程度の大きな丸い塊で、それを真つ二つに切断し、この切り口をラクレット用電熱器で溶かし、溶けた熱々のチーズをナイフで削り取り用意されたお皿の上に落とします。お皿には、皮をむいた熱々の茹でジャガイモが乗っており、その上に溶けたチーズを乗せ、赤いパブリカを振りかけて食するのです。塩味の聞いたチーズと茹でじゃがいものハーモニーは格別であり絶品です。副食物、飲み物は、一品目同様です。冷たい飲み物はアルコール以外厳禁です。ラクレットもスーパーに行きますと、やや長方形にスライスしたものが販売されていますので、家庭ではそ

れをラクレット専用の家電で熱します。チーズ上に好みにより、ニンニクや、トマトの刻み又その他の好み物に乗せて溶かし、茹でたジャガイモに乗せて一緒に食べるのです。

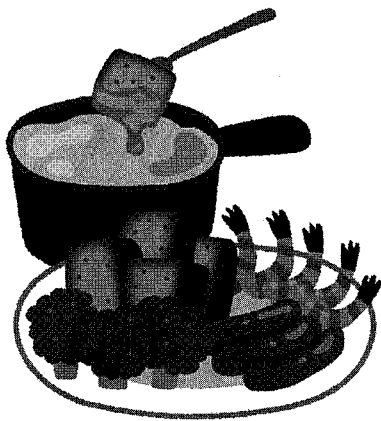
三品目の料理はシヤルボナード（炭焼き肉）です。スイス山小屋スタイル（木造建築で、シヤレーと呼ばれています。）の内装を施した専門店です。日本の焼き肉店も同様ですが各テーブルの真上には巨大な吸煙排気口が設置されており、周りを木枠で囲った大きな七輪を据え付けます。七輪の中は真つ赤な炭火火照りが熱く顔を照らします。肉を乗せる網が被せて在り、その上に柔らかい長方形の牛肉を乗せ自分の好みに合わせて程良く焼きあげ、皿に取り、様々な好みのたれを付け、赤ワインを飲みながら食べるのです。美味しさの秘密は、牛肉は勿論ですが、たれの豊富さに在ると思えます。生ニンニクの刻み、パセリ、玉ネギ等の刻み、レモン汁、マヨネーズ系のタルタルソース、

マヨネーズのパセリ合え、小刻みの赤辛子をオリーブ油漬けしたソースが3種類（辛さが、強中、弱となります。）カレー粉、ターメリック等を基調としたソースが3種類、それに日本人が大好きな醤油、オイスターソース、ケチャップ等を自分の好みで選択し焼き肉に付けて食べるのです。焼き肉の前菜としてはミックスサラダを食します。家庭では、応用として、海鮮物や茄子、シイタケ、玉ねぎなども楽しめます。店の室内は肉から出る煙で黒光しており、洋服にも、その匂いは容赦なく付着するので要注意です。シャルボナード料理の凄い効能は、疲れが一気に吹き飛んでたちまちに元氣回復が出来る事です。

主なものを取り上げましたが、その他にも、スイスドイツ語圏（チューリッヒやバーゼル州）では、「シュニッツエルチューリコワ」と呼ばれ、牛肉のコマ切れをキノコ和えクリームソースで煮込んだ料理や又、馬鈴薯を細長く刻み、ハム類のコマ切れを混ぜ、こんがりと、きつね色に焼きあげる「ローステイ」と呼ばれる料理はスイス国内で良く知られております。

それ以外の地方独特の料理のバリエーションも多々あるようですが四品目は、自分の事で恐縮ですが、私が好きでよく食した料理を紹介させて頂きます。この料理は、ドイツが本家で、サウアークラウト（直訳で、酸っぱいキャベツの意）生キャベツを細かく切り刻んで酢に漬けて一定期間寝かせたものが市販されていきますので、それを鍋に入れて、白ワイン又はビールを注ぎ、その中にソーセージ、豚肉の燻製やベーコン等を入れ、とろ火で一時間くらい煮込みます。別に茹でておいたジャガイモ、ぶつ切りのニンジン等を加え更に煮込み完成となります。酸味の有るキャベツと肉類と野菜の味は私の大好物でした。嬉しい事にポーランド製の瓶詰め酢漬けキャベツを舞鶴の業務スーパーで大発見、早速我が家で料理してみました。美味しくスイス

で食べてた食感と遜色なく大成功でした。商品名は、片仮名で「サウアークラウト」と表示されてますので是非皆さんも一度試してください、結構いけますよ!!その他、家庭で手軽にできる、ムール貝の料理や、イタリアのトマトモザレラサラダ等々まだまだ好きな料理は沢山有るのですが、紙面スペース限界が近づきましたので今回はこれにて、次回は歴史に関し面白く思った事等を紹介させて頂きたく思います。



平成29年度 宮津市人権標語優秀作品

- いやなこと しない いわない だれにでも (小学1年生)
- がんばって みんなおうえん してるから (小学2年生)
- 坂道を ひっぱるこの手 ぼくがつえ (小学3年生)

成人式

蒲原

穂香



平成三十年一月七日、この度私たちは無事、成人式を迎えることができました。この日を迎えて誇りに思ったことが三つあります。

一つ目は、友達の成長と変わらなさです。やりたいことを見つけ、自分の足で歩いていく友人、やりたいことを見つけた友人、やりたいことを見つけた友人、数めに日々頑張っている友人、数年ぶりに会う同級生の遅しく成長した姿に尊敬するとともに、自分も頑張ろうと背中を押されました。

一方で内面の優しくて思いやりのあるところは、皆全然変わっていませんでした。この変わらなさに安心感を覚え、会えて良かったと思いました。

二つ目は、地元の人たちの温もりです。小学校のときにお世話になった見守り隊の方々や個人的なマラソン練習を通して出会った方々が、二十歳を迎えた今でも私に声をかけてください

ます。時々帰省した時に走りに出ると、挨拶だけではなく最近の調子など聞いてくださる事がとても嬉しいです。このように由良は、とても温かい地域だと思います。

三つ目は、自分を信じてくれる人がいることです。それは両親、祖父母、そして先生です。私は将来何がしたいのか、はつきりと決まっていません。そんな中、両親は多くの支援とアドバイスをくれ、祖父母は温かく見守ってくれています。そして同窓会で再開した先生方は、小中学校での私をちゃんと見ていてくれて、自信を持つべきことと、これから頑張るべきことを真剣に伝えてくださいました。人との出会いを大切にしたいこと、やるべきことを理解し、与えられた時間を懸命に生きていきたいです。

川柳

大森 美智子

ああ知覧 還らぬつばさ
思うとき

時には 寄り道したい

伝書鳩

面倒な事は 聞かない

深海魚

神様の 足音だった

聞きもらす

潮騒に 遠い絆が

うずき出す

流れ着く ハレグル文字も

椰子の実も

職安の 窓にプライド

捨ててくる

一本の 葉を描いて

生きのびる

短歌

柘本 清

年の暮れ里に帰りし息子たち
襟巻忘れる暖冬の初春

大寒や初春つぼみの福寿草

花言葉は幸せの花

花冷えの日差しゆるやか木の芽たち

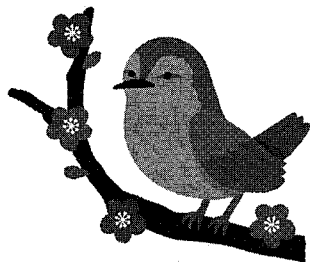
初鶯のあどけない声

久々に浜辺歩けば海静か

寄せる波にも海藻のかおり

ボラレティアまた来てねと老婦人

受けたパワーによりしくねと
(ハイタッチ)



「新宮涼庭」生誕二百三十周年(一)

昨年、二〇一七年が新宮涼庭の生誕二百三十周年であった。ここに子孫の新宮涼輔氏からいただいた資料をもとに新宮涼庭について紹介したい。

【新宮涼庭略年表】

- 天明七年(一七八七年) 生誕
- 幼少期：由良
- 十六歳(江戸旅学、従兄丹山と江戸へ)
- 十八歳(江戸から帰郷、二年間由良で開業、三年の月日を費やし各地の名医を訪ねる。)
- 二十四歳(長崎旅学)
- 三十二歳(京都開業)
- 安政元年(一八五四年) 六十八歳で死去、京都南禅寺天授庵に葬る。

一七八七年、今から二百三十九年前の事です。天明七年に一人の男子が丹後由良に生まれました。

この子が涼庭である。涼庭は姉と妹が三人の五人姉弟妹でした。驚くことに生まれた時(三月十三日)は、すでに二本の前歯が生えていたそうであった。衆は驚いて鬼子であるとか言われ、すぐに取り上げてはいけない、などと言い、仮に路に捨て不祥をはらい、外祖母がこれを拾って家に帰ったのである。当時は鬼子をいったん棄てて誰かに拾ってもらう風習が各地で行われていたようである。

幼少時代は、幼時より人に優れ、読経の句読をうけて、書を学んだようである。僧が諸経を講じて問答するのを謹んで聞き、ひとたび聞くと忘れなかつたようです。又、子供たちと遊ぶ場合も自ら大将となり、他の子供たちを優劣で分け、優れたものには果物などを与え子供たちは皆悦服し涼庭に従ったという。そして、由良浜で仲間と遊んだそうであるが、一人の子供を馬として自分はその上に乗って、他の子供たちを周りに排列させて意気揚々としていたのである。

十一歳の時、涼庭は伯父の有馬涼築の学僕となった。寛政九年(一七九七年)の事である。当時の有馬家は医名の高いにもかかわらず財政的には豊かではなかつたようである。涼庭は調剤の見習いのみでなく家事労働にも協力したようである。しかもかかる多忙の中にあつても涼庭は勉強を怠らなかつたのである。深夜灯火が漏れて叱責されないように、わずかに点じた線香の火で読書したのである。又、雨の日は書巻が濡れるのを恐れて、傘骨に吊るし、外出歩行の間も書見を怠らなかつたのである。経書の勉強でも(十二歳)厳溪高台の机前で『左伝』を読んでいたが、たまたま鼻水が流れてきたので、これをかもうとしたが、鼻紙がなかつたので『左伝』を破って鼻をかんだ。先生が大いに怒ったが、涼庭は書は記憶してしまえば反故に等しいと答えたのである。先生は怒って問い詰めたところ、涼庭は一字も誤らなかつたので、その神童ぶりに驚いたのである。父(道庵)が放蕩であつたので涼庭はずいぶん苦労したのである。祖父、道郭の長男は有馬氏を継ぎ、次男玄民が家業を継いだのである。涼庭の父は三男である。

そして、涼庭十六歳の時(享和二年)一八〇二年、従兄、有馬丹山(涼築の子)の学僕として丹山の君主、福知山候の江戸藩邸へ行った。二年後の文化元年(一八〇四年)に帰郷した。

十八歳で江戸より帰郷した涼庭は、由良で開業したのである。郷里での両親を侍養すること数ヶ月で正月になつた。

〈続きは次号で〉
主事編集

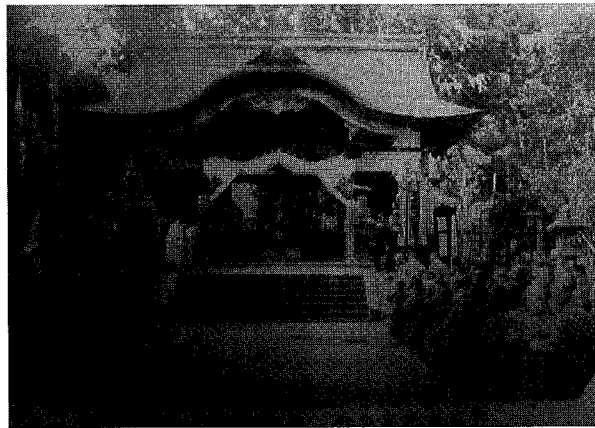
由良が光り輝いていた時代(六)

由良の歴史を探る会 加藤 正一

寺社その他編 No.6

現在の姿は左

この神社を御存じか?



た。これにより建物の形が変わり現在のようになった。

明治二十一年(一八八八年)

「由良神社」になる前は丹後国加佐郡寺社町在舊記 享保十六年(一七三一)には、熊野三所権現社と記される。

宮津市史には明治になるまで熊野一二社大権現あるいは熊野三所権現と称していた。上社・熊野三所。下社九所を祭つたとある。

古来鎮座する熊野神社(紀州)社伝によれば上・中・下の三宮に分祀されていたが、正徳元年(一七二一)社殿造営の際、上・下の二宮を中宮に合わせ一社として祀つたと云う。上下二宮の宮跡は小字名にて上の宮の跡地を字上の宮、下の宮跡の跡地を字熊野山と称すと記述される。

(言行三束 永浜宇平)

言行三束(永浜宇平)によれば由良神社の前神熊野権現は村の人達が紀州から分霊を勧請して産土神に奉つたのではなく、由良山如意寺寶寿院が祭つた鎮守である。如意寺文書中に熊野

神社の棟札を写したものととして次の物がある。

熊野三所権現 御宮一宇守護所

正徳(一七二一)十月

熊野九所権現 御宮一宇守護所

正徳(一七二一)十月

(しかしこれら現存するか確認出来ない。)

由良神社の縁起には出雲の熊野神社(紀州の熊野神社の元社と云われている)を祭神の一つにしている。これは明治の神仏分離時に勧請したものとと思われるが、紀州の熊野神社を祭っているのに何故出雲の熊野神社を勧請したのであろうか?しかも紀州の熊野神社を別本殿として祭るとは。

また天保四年(一八三三)神社社壇の盛り立を行い社殿の修理を施す棟札あり。(未確認)

御宮地上 奉修理 天保四年霜月

「由良神社」(今年一三〇年)

十分な調査を許されなかったが、分かった範囲で述べる。

この写真は、大正六年(一九一七)から昭和十一年(一九三六)の間に写されたものと思われる。

由良の歴史年表によれば、大正六年由良神社遷座(山側向きから海側向きに変更)とある。

今も社殿裏に由良岳を向いた拝所石が置かれる

大正五年一二月に許しを得て大正六年三月起工、十月竣工。昭和十一年落雷のため炎上し

熊野神社本殿 この社の中には



昭和四十五年八月一日
奉修理若宮神社棟札
由良神社宮司今城力雄

この棟札にある若宮神社とは諸説あり良く分からないが、

熊野三所権現又は熊野十二社大権現を若宮とも云うと書かれているものもある。

熊野神社が由良神社に名前が変わったのは、

明治二十一年(一八八八)一月京都より村社・花御所八幡宮を遷座して熊野神社に合祀し由良神社と改称し奉る。

今年由良神社になって一三〇年

花御所八幡宮とは

山城国上京区第二組上善寺門前町に鎮座(神社帳 明治十七年)

寺町鞍馬口に鎮座(言行三束)境内花木多く栽植し、往々行幸あり、閑院の宮、近衛、岩倉、中院、六条、久我、その他撰家堂上公家衆の御崇敬ありしも、東京遷都に依りて祭祀故のごとくならず。明治六年村社に列せられたるにも次第に衰微。府庁の斡旋によりて由良村に勧請。

明治三十五年四月故小松宮彰仁親王殿下より神号由良神社の御染筆を賜う。とある。

紀州・熊野三山とは

熊野速玉大社

(祭神速玉男神)

熊野本宮大社

(家都御子神)

熊野那智大社

(牟須美神)

三山の祭神を合祀して熊野の神は熊野三所権現、他の神を加え熊野十二所権現と呼ばれる。

由良神社の祭神は

伊弉諾命

(いざなぎのみこと)

櫛御氣野命

(くしみのみこと)

譽田別命

(ほんだわけのみこと)

前者の二神は出雲の熊野神社。残りの一神は花御所八幡宮である。

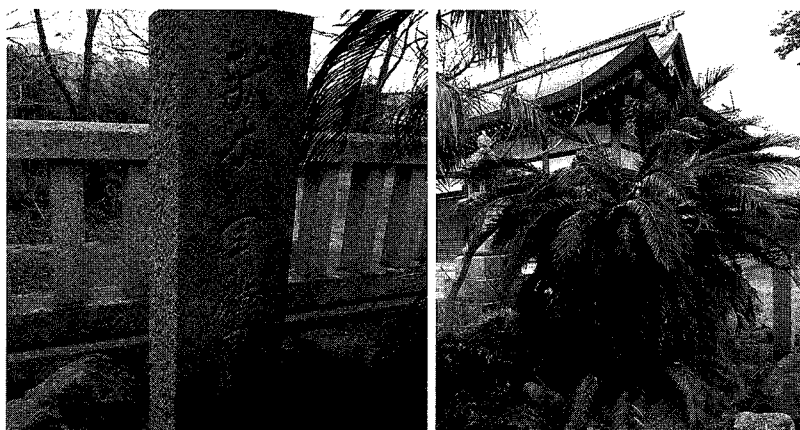
・大正十二年五月帝国軍艦由良

艦長の懇請に依り当神社御神靈分與し同艦の守護神として乗員の崇敬特に篤。

・大正十五年九月六日小槇同艦長以下乗員約五百名参拝

・昭和二年八月三十一日艦長豊田海軍大佐以下約五百名参拝奄美大島産蘇鉄一株献納。

現在も神社境内にそのソテツはあり、碑もあるが目立たないように建てられている。



献木 軍艦由良

側面 昭和二年八月三十一日

由良神社昇格

有力者達が積極的に活動したが、由良村では村社由良神社の昇格を目論見一昨年(昭和二年)運動中の所此の程不首尾になった。此のままでは情けぬから何とか方策を！と永浜宇平氏に依頼す。氏の協力を得て目的を達成できた。

内務省京社第四十号

村社由良神社

京都府加佐郡由良村字由良鎮座

右郷社に列す

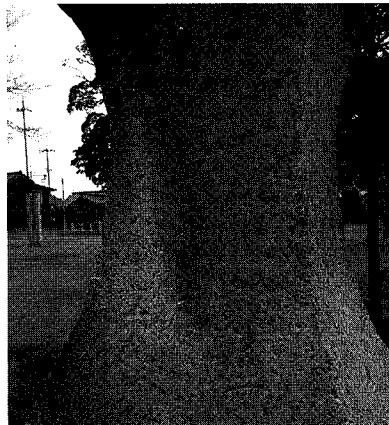
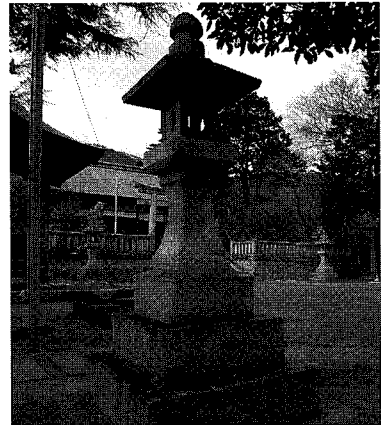
昭和三年十月二十四日

内務大臣 望月圭介 印

有力者達の名前も記載されているが、ここでは伏した。

この資料のほとんどは、永浜宇平著「言行三束」によるものである。この資料は信頼度が低いと云う評価も有、疑問点もあるが由良神社についての概要は把握できる。

現存する江戸時代の構造物として、一對の灯籠がある。



寛延二年(一七四九)

新屋 六右衛門

由良神社年表

- ・明治以前
 - 如意寺の鎮守
 - 紀州熊野三所権現、
 - 熊野九所権現
 - ・明治二十一年(一八八八)
 - 花御所八幡宮を合祀、
 - 由良神社と改称
 - ・大正六年(一九一七)
 - 由良神社遷座
 - 山側向きから海側向きに
 - ・昭和三年十月二十四日付け
 - 京都府郷社列す
 - ・昭和十一年
 - 落雷の為炎上
- これらは由良歴史年表、言行三束(永浜宇平著)にもとづく。

編集後記

二〇一七(H三〇)三月立春を過ぎましたが、厳しい寒さが続いています。数十年に一度の大寒波の襲来により記録的な大雪に見舞われ北陸地方では国道八号で多数の車両が立ち往生する状態が続いていました。

このような状態のなかで、物流が止まり、スーパーの商品が底をつき、ゴミの収集もできなくなり多くの市民が被害をうけました。

丹後半島では七五センチメートルの積雪を記録しました。丹後地方は積雪量が多くなく、被害は少なかった。

近年にない大豪雪、これも温暖化の影響だと気象予報士は解説しています。

このような豪雪が毎年来ないように願いたい。

もつすく三月、厳しい冬も終了し梅の便りもそろそろ出てくる頃です。

早く駅前通りの満開の桜が見たいものです。(枝川)

